

# TOKYOサイクルフォーラム 実施報告書



財団法人 日本自転車普及協会



この事業は、競輪の補助金を受けて実施するものです。  
<http://ringring-keirin.jp>

## 目次

1. 全体概要	
(1) 名称等	3
(2) 開催実績	4
2. フォーラムの開催	
(1) 基調講演	6
(2) トーク&ライブ	9
(3) パネルディスカッション	10
(4) 自転車市民権宣言とフォトセッション	15
(5) 展示車両と署名パネル	16
(6) 7階会場入口	17
(7) 会場内様子	18
(8) 装飾パネル・バナー等	19
(9) 配布物	20
3. TOKYOサイクルスタイルin丸の内	
(1) TOKYOサイクルスタイルin丸の内	22
(2) 装飾パネル	22
(3) 展示自転車一覧	23
4. アンケート	
(1) アンケート調査	24
(2) アンケート様式	24
(3) アンケート集計結果・分析	25
(4) 本フォーラムについての意見	30
(5) アンケート全体を通じて	33

# 1. 全体概要

## (1)名称等

### 【名称】

TOKYOサイクルフォーラム

### 【目的】

近年、自転車は環境や健康の観点から利用が増える一方で、事故の増加や自転車マナーの向上等が課題となっています。

そこで、現在の自転車ブームを一時的なブームとして終わらせないために何が必要か。また、自転車が社会の中で市民権を獲得し、安全で快適な走行環境を実現するための方策は何か。更に、自転車のライフスタイルへの定着をどのように図るか等について基調講演、パネルディスカッション等で構成するフォーラムを実施する。

また、自転車先進国と言われる欧州を訪問し、自転車が安全かつ快適に走行できる市内の自転車走行環境や交通規制の実態及びサイクリストの現状等を撮影する。その際、各市の自転車政策担当者等へのインタビューを通じて、各市が抱える課題や今後の施策についての意見を求める。

### 【内容】

#### ①基調講演

屋井鉄雄・東京工業大学教授：「自転車は歩道ではなく車道を走る」という考えを定着させ、自転車と自動車と同じ空間で走れる環境整備が必要。何より、歩行者の安全を第一に考え、自動車と自転車がお互いに相手の立場を思いやり、譲り合おう心が必要だ。

現在の自転車ブームをブームで終わらせないために「行政・警察・地域が一体となって長期的な視点で自転車走行空間を継続的に整備することが必要」と訴えた。

#### ②トーク&ライブ

NILO・シンガーソングライター：自転車との出会いを語ったあと、3曲披露した。

#### ③パネルディスカッション；

パネラー	兵藤哲朗・東京海洋大学教授
パネラー	亙理章・トヨタ自動車IT・ITS企画担当部長
パネラー	青木陽子・ジャーナリスト
パネラー	玉袋筋太郎・浅草キッド
コーディネータ	絹代・サイクルライフナビゲーター

「パーソナルからパブリックへ、快適な街づくりを目指して」をテーマにパネルディスカッションを実施した。自転車の走行環境が整備された欧米諸国や、近年自転車の利用が急速に進んできた英国や韓国の事例を紹介しながら活発な議論を繰り広げた。

パネラーの議論を受けてコーディネータが、自転車が安全に走行できる環境の整備とともに自転車に乗る人もマナーを守り、自動車や歩行者の安全に気を配る必要があるとまとめた。

#### ④自転車市民権宣言パネルへの署名等

基調講演者やパネラー等全員が登壇して自転車市民権宣言パネルへ署名した。玉袋氏がパネルを主催者である財団法人日本自転車普及協会 渋谷良二常務理事に手渡した。

#### ⑤自転車走行環境等の撮影

欧州のオランダ、ドイツ及びデンマークの三カ国、6都市(アムステルダム、ハウテン、ユトレヒト、ミュンスター、デュッセルドルフ、コペンハーゲン)延べ12日間1,200Kmのロケーション撮影を2月22日から3月3日にかけて実施した。

## ⑥テレビでの放映等

欧州の自転車事情とフォーラムの実施状況を55分番組にまとめて、BSフジにて3月30日(火)18時から放映した。また、読売新聞において事後採録を3月30日夕刊に掲載した。

## 【開催日時】

TOKYOサイクルフォーラムの開催  
平成22年3月24日(水) 18:00~20:50

## 【開催場所】

TOKYOサイクルフォーラム(丸ビル7階:ホール&コンファレンススクエア)  
TOKYOサイクルスタイルin丸の内(丸ビル3階回廊)  
東京都千代田区丸の内2-4-1 丸ビルにて



## (2)開催実績

## ① TOKYOサイクルフォーラム

来場者総数	350名 (会場席数 360席)
事前登録者数	310名
当日来場者数	20名
メディア	20名

アンケート回収数	320枚 (メディアを除く回収率 97.0%)
自転車市民権宣言回収数	188枚 (同上 57.0%)

## ② TOKYOサイクルスタイルin丸の内

来場者総数	548名
自転車市民権宣言回収数	70枚

## 2. フォーラムの開催

## (1) 基調講演

### 屋井 鉄雄 東京工業大学教授

タイトルの「自転車が変える道とまち」はいわば夢です。自転車がこんな風に使われて、こんな風に道を、街を変えていって。もっともっと住みやすい、自転車にとっても使いやすい、歩行者にとっても歩きやすい道や町になっただらいいなという思いです。本日はこの夢に至るために必要なことを話をさせていただきます。

現在は自転車がブーム。これをブームで終わらせないための三つの重要な点は、

1. 自転車の都市内走行空間をどのように確保するか
2. 自転車利用者自らが車両を運転していると自覚を持っているか
3. 自転車政策を継続的に推進する枠組み、法制度が必要ではないかといった点です。

#### 車道空間の再配分の先行例



東京渋谷区の旧玉川水道道路の自転車レーン(自動車の走行速度は遅く、自転車の安全性高い)



金沢市の自転車レーン(バスと共存の先進的な成功例)

まず、自転車配慮型道路実現の取り組みとしては、歩道では歩行者からいかに自転車を分離するか。車道では自動車からも自転車をうまく分離することが出来るかです。この考えかたは、道路を管理する国土交通省と交通を管理する警察庁とが合同で検討して、3年ほど前に提言書として発表されました。

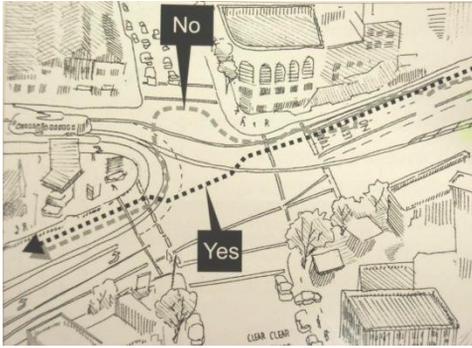
この提言書の中で、改めて自転車レーンのように、他の国では当然のような自転車走行空間の作り方が日本でもようやくキッチリと示されました。

この道路の設計指針等は大変重要で早く世に出せとの要望が強く、国土交通省等ではいろんな準備をして一部が示されたところですが、交差点部の扱い等、いろいろな意見や考え方があなかで中途半端な状態で出すとかえって、必ずしも適切でないような整備が進んでしまう心配もあり、難しい問題です。

一方で、自転車走行空間を歩道上に作るか車道上に作るかについての議論はまだ残っています。私は自転車レーンは歩道上ではなくて、車道上に線を引くだけでも十分だという場所がいくらでもあるじゃないかと思うのですが、やはり、危ないと思われる人もいて理解は十分に浸透していないのが実態です。



### 自転車利用者ガイド (サンフランシスコ市)



サンフランシスコの自転車利用者向けのガイドブックには、交差点ではこうやって通行せよと書いてあります。車のドライバーに、自転車がこの先向かう方向を的確に判断させることが重要です。次はこういう動きをしますよと自動車へ伝えることが大事なのです。

コミュニティサイクルのステーションの設置場所は、リヨンでは歩道に置いた。これだと結果的に歩道を走ることになる。ナンシーも歩道の中で、これはダメだと思いました。ツールズは車道上にステーションを作ったので、車道で乗り降りすることになり、結果として車道を走ることになるので望ましい。

日本でコミュニティサイクルを導入したらやっぱり歩道が今まで以上に混乱するようでは困ります。

### コミュニティサイクルのステーション



多くが歩道上に設置されたリヨンのステーション



車道上の設置を徹底したツールズのステーション

車道

歩道



歩行者モール内に設置されたステーション(ナンシー)



混沌のパリ風景

歩道を削って車道レベルで設置された例(パリ)



### 大らかな車道利用による成功例 渋谷区幡ヶ谷のモデル事業



自転車レーンが出来て歩き易くなりました(歩行者談)

幡ヶ谷は大らかに自転車が走っているので成功事例だと思います。これは車の速度が遅いからできることです。

まずは歩行者の安全確保。高齢社会では歩道の歩行者の安全が環境や健康の前に確保、保証しなければいけないと思います。

都市中心部では道路空間の再配分が重要なポイントです。欧米では盛んにやっています。日本でも自動車の速度を下げさせて、自転車の走行空間を歩道とは別に生み出す努力が必要です。

そして歩きやすい環境も作らなければなりません。歩行者の安全の確保については、我が国固有の命題であり、問題です。

## わが国の自転車政策推進のための論点

- 責任分担：地方と国の責任・役割分担，管理者間の連携・協議，住民・NPOなどの協力（行政だけでは推進できない）
- 目的規定：道路空間計画の方向性（温暖化対策税の使途，自動車交通削減という大義）
- 計画制度：環境・安全・防災等を含む道路の既存ストック計画（今後の道路整備・更新などの制度設計のありかた）  
沿道コミュニティを含むまちづくり（手続き論）への展開
- 計画論：都市計画（MP等）と自転車ネットワーク計画との整合性（自転車ネットワーク計画の守備範囲の明確化と都市計画における位置づけ）  
バスと自転車の適切な分担（公共交通のあり方を含めた総合的な戦略）
- 設計論：歩行者から原則分離の設計理念の徹底と共存条件の明確化（歩行者がいなければ自歩道でも構わない）

## 我が国の自転車政策において重要な理念

- ☆☆☆自転車に配慮するという理念（歩行者の安全）  
⇒このためには法制上の位置づけ、枠組みの策定（道路整備の目的規定、自転車レーンの位置づけ）
- ☆☆自転車を重視するという理念（地球温暖化対策）  
⇒多様な社会の価値からそれぞれの地域が選択（方針・計画、連携、合意形成、財政支援等の制度化：継続的な推進の支え）
  - ・自転車利用に関して全都市が同じ方向ではない
  - ・選択的に活用できる制度は必要（適正な政治リーダーシップで推進）
- ☆自転車を楽しむという理念（健康、地域の魅力）  
⇒楽しく使えることがおそらく地域の魅力に繋がる



## おわりに

我が国の自転車問題はルール遵守等様々にあるが、走行空間の問題が最重要ではないか！

- 空間整備のため自転車政策の継続性が重要課題  
⇒過去の断片の取り込みネットワーク化。道路管理者間、河川・港湾・管理者、公園管理者などとの連携強化
- 自転車政策を推進するための制度設計が必要  
⇒温暖化対策推進法、道路法、道路交通法、自転車法、都市計画法、今後の交通基本法等、関連法制の活用・改正を視野に
- 自転車走行空間の設計方針として、早期のネットワーク化のため、自転車レーン導入を積極的に進めるべき（自歩道を同時に残すことは可能）  
⇒対面通行の自転車道が適する場所は限られている  
⇒歩行者の安全を第1に、自転車道と自転車レーンの活用

## (2)トーク&ライブ

### NILO シンガーソングライター

私の活動と自転車についての話をさせていただきたいと思います。



会場で配布中の「ふたつの輪」というフリーマガジンは、自転車の市民権宣言にふれる内容を中心に編集をしています。

私は三年ほど前に仕事でスポーツバイクに触れました。それまではママチャリしか知らなかったんですが、ひとこぎで軽く走る。気持ちがよくて、自転車の概念がすごく変わりました。こんないいものなら乗ろうと思ってクロスバイクに乗りました。それで、最初はクロスバイクやスポーツバイクという存在を知ってもらいたくて雑誌を作り始めたのです。

そのうち、自転車の乗り方や走る場所が気になってきました。それまでは自転車のルールをまったく知らなかったんです。歩道を走ったり、右側を走ったり、灯火も壊れればそのまま無灯火で走っていました。スポーツバイクはスピードが出るので車道を走るべきですが、怖くてつい歩道を走っちゃうんです。これって皆同じ気持ちじゃないかなと思って、皆さんに自転車に乗るルールについて意識してもらったり、考えてもらうきっかけと一緒に自転車の楽しさを伝えられたらいいなと思って雑誌を作っています。

今は、大阪に住んでいます。不法駐輪が多い場所で問題が多い街だけど、自転車の利用者も増えていますし、去年一年だけでも徐々に駐輪場も増えてきて随分大阪の町も変わってきたと思います。また、名古屋はもともと力を入れている街で、いろいろな団体が自転車についての活動をしています。東京でも駐輪場が増えたと聞いています。このようにスポーツバイクに乗る人が増えてくるのに比例して街の整備が進められるといいなと思います。私も微力ですが今後も自転車に関する活動を続けて行きます。それでは歌を聴いてください。

1曲目： スタンドバイミー ポサノバ風

2曲目： I NEED TO BE IN LOVE アイ・ニード・トゥ・ビー・イン・ラブ  
(カーペンターズ)

3曲目： カバー曲を中心に活動してきたがオリジナル曲を披露「中心部」  
自転車でそよ風とともに駆け抜けていくような歌声で三曲を披露した。



### (3) パネルディスカッション



パネラー： 兵藤 哲朗

○東京海洋大学海洋工学部流通情報工学科教授

○交通需要分析と施設計画の専門家。自転車との関わりは大学時代、サイクリング部で全国を輪行。今は、ヘルメット着用で車道・左側走行。美しい自転車に見合う美しい街、そのための自転車走行空間整備を推進したいと思います。

パネラー： 亘理 章

○トヨタ自動車(株) IT・ITS企画部担当部長

○小学生の頃、大人の自転車を「横のり」で乗って感激。今でも自転車は「こんな乗り物に乗ってみたいなあ〜」という空想を駆り立てるもの。クルマ屋でありながら、自転車も仲間だとして自転車のことを考えています。

パネラー： 青木 陽子

○編集者/プランナー/環境ジャーナリスト/(株)カフェグローブ・ドット・コム取締役

○10年前、温暖化ストップは自転車！と自転車通勤開始、一気に自転車の魅力のとりこに。人生や自由を心から楽しめる自転車の本当の魅力をもっと多くの方に伝えたい。自転車ブームの英国最新事情をご紹介したいと思います。

パネラー： 玉袋 筋太郎

○浅草キッド

○芸能界でも指折りの自転車乗りとして、自ら体験したことを通じて、自転車の素晴らしさをつたえるとともに、会場を盛り上げます。

コーディネーター： 絹代

○サイクルライフナビゲーター

○ロードレースを知り、自転車の可能性を感じた。自転車が、カラダとココロ、そして地球にステキな影響を与えられる存在であることを伝えたい。コーディネーターとして、いろいろな意見を引き出せるようがんばります！

### ○テーマの確認から

絹代：テーマは「パーソナルからパブリックへ・快適なまちづくりを目指して」です。

「パーソナル」とは個人のもの、プライベートな空間、個人個人の楽しみを生かしながら、「パブリック」公的なもの、社会としてのもの。皆が快適な街に暮らしていけるようになる。皆がそれぞれの楽しみや事情を生かして、自由に選択出来ること。人が暮らす社会的な空間である街が快適になるために自転車を持つ可能性について議論したいと思います。



### ○自転車との関りについて

玉袋：ドイツの格言で、「トラック一台の薬を飲むことより一台の自転車に乗ることの方が健康への近道」との言葉に感化されて自転車を乗りはじめた。スポーツジムいらず。街乗りすれば町中がジムになる。

青木：ロンドンと東京と半々位。二都市とも自転車に乗っている。自転車とは、10年前に自転車通勤を始めた。乗り物好きで車の雑誌の編集をしていたが、温暖化が気になってエコから自転車に向かっていった。自転車は乗ってみると楽しいし、アンチエイジング（抗老化、健康、美容にもいい）にもよい。

亘理：自転車は私にとって楽しめる道具。遠くへ行ける。乗り物は人間を拡張する道具。自転車は人間力を創造する道具だ。

兵藤：専門は交通で、大学時代はサイクリング部。研究テーマは自転車道をどう作ったらよいか、交差点をどう設計したら自転車にとって安全かといったハードとソフトの研究。

### ○自転車ブームどう感じているか

青木：都心を走っていると、10年前は毎日三回から四回はビービークラクションを鳴らされ幅寄せされていたが、最近は数日に一度程度に減って走りやすくなった。

亘理：2年前から通勤ルートで自転車が極端に増えてきた。かっこよく走っている。

兵藤：散歩で見ると、とめてある自転車がかっこいい。

### ○ルールを守らない、乗り方が悪い原因は何か

玉袋：下駄感覚、ぞうり感覚があるのではないか。乗り物だと思っていない。自転車が安いのもあり、壊れたら捨てれば良いという感覚が根底にあるのでは。

青木：世の中全体での考え方が統一されていない。

亘理：自転車が安全に快適に走れる場所がないことが最大の問題。

兵藤：歩道を自転車は走ってはいけないという基本が守られていない。この考えのPRが必要。

### ○自転車先進国のヨーロッパの取材映像を紹介、欧州の自転車事情の感想

兵藤：自転車道の幅員は広く、ものすごい利用者がいる。自転車が街中でメジャーなポジションをもっている。





兵藤： 車道をつぶしてでも自転車道作る。路地裏のちょっとしたところでも活用して自転車のスペースを作る。

日本でもやろうと思えばできることがある。イタリアでは商店街の裏道にボラードという杭で一車線道路をつぶして自転車道にしている。非常に簡単な作り方だ。ガードレールでくられると逃げ道がなくなる。これは歩車共存のコンセプトだ。

絹代： ゾーン30、自転車が快適に走るために自動車の速度制限をする。こういう考えは、日本にはない。

亘理： 欧州では、70年代後半から90年代初めにかけて歩車分離政策を行った。その結果、中心市街地が衰退した。地域のコミュニティが崩壊した。この反省から歩車共存へ変わってきた。その代わり、車のスピードを極力抑える。そういう中で歩行者と自転車と車を共存させるという考え方が出てきた。

最近では一歩進んで、車道とか歩道とかの区分や信号機がなくお互いにアイコンタクトで譲り合って走る交通社会「シェアード・スペース」という新しい概念に移行している街もある。



絹代： ヨーロッパでは、人が一番優先される。次いで自転車。その次に公共交通機関、そして自動車というピラミッドが成立しているからシェアード・スペースという考え方が成立する。

○欧州の道路空間、街づくり道路づくり。走っている人の認識も違う。それはなぜか？

青木： 英国でも、自動車と自転車が同じ車両として一対一で交通ルールが適用される。

○欧州の道路空間、街づくり道路づくり。更には、走っている人の認識も違う。それはなぜか？

青木： 道路の使い方全体について、皆が交通のルールを知っていて、守っている。



亘理： 日本では、道路は国が、地方自治体がと公的な機関が作るという感覚が強い。欧州では道路は市民のものだ。使い方も含めて自分達で道路を作っていく、運用していく。だから、自分達で作っているの自分達がルールを破るわけにはいかない。みんなで決めたルールは、皆で守る。

### ○自転車が安全に走れるポイント

絹代： いろいろなスピードの乗り物が一緒に安全に走れるためには車がスピードを落とさないと実現しない。お互いへの配慮。安全に走れる街を作るポイント、事故を防ぐポイントについてご紹介ください。

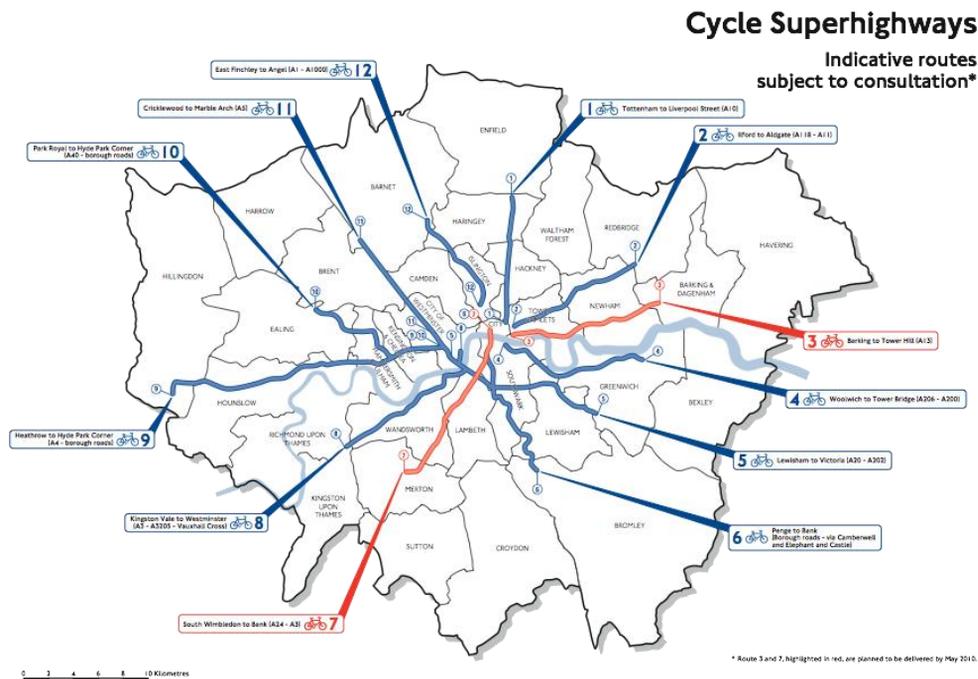
亘理： ドライバーからみて、自転車との事故を起こさないための三か条の一つは、自動車のドライバーが自転車を視認する。このためには自転車道・レーンを早く作る事が非常にポイントになる。二つ目は、ドライバーが自転車の挙動を予知する。危険かなと思ったらスピードを緩めたり回避する。そのためには自動車のドライバーが理解できるように、もっと自転車の交通ルールを簡素化する必要がある。三つ目は、フランス・ナント市の事例。ドライバーと自転車がアイコンタクトして、お互いに譲り合う。これをきちっとやれば事故は無くなると思う。

絹代： 今まで紹介してきた、「バイクボックス」「自動車のスピードを抑える」「アイコンタクト」「ハンドサイン」などの欧州の事例は、まさに、それに当てはまる取り組みだと言えるだろう。

### ○ロンドンの自転車事情

青木： エコと健康の意識も大きいですが、ロンドン市の交通行政意識が変わった。市の自転車予算は、去年150億円をソフトとハード両面の自転車だけに使っている。ロンドン市で900kmのサイクルレーンをつくる。新しい市長が作ったプロモを放映。前任市長の施策を引き継いで自転車の優遇施策を推進すると発表。ブーイングはない。マスコミが自転車には親派で票になるからとの意見も一部にはあるが。

#### サイクルスーパーハイウェイ



### ○自転車に乗る人が限られている隣の韓国でも

絹代：韓国も大統領のトップダウンで自転車の環境整備を進めている。

亘理：ソウル市は2008年の10月にマスタープラン発表。2012年までに17幹線道路で207kmの自転車道を整備するという計画。現在は試行錯誤をしている段階だが、今後、どんどん進んでいく。日本が追い抜かれていくと心配。

### ○今後、日本がどんな風が変わっていくべきか

亘理：自転車の走る場所がないので自転車道を設置する基準を作る。道路の速度規制に応じて、市街地、非市街地及び生活道路の三つに分類して。

青木：自動車のスピードを落とさせる運動がいい。レーンを引くより安上がりだ。

兵藤：歩行者や車はそれほどスピードに差はないが、自転車だけは子供や高齢者と通勤で自転車に乗っている人の間には大きなスピードの差がある。このスピードが違うものをどうやって混在させるかが問題でもあり難しさだ。亘理さんの明確な空間の分けけと、後の対策は早く走る自転車をみんな買ってもらうことか。

玉袋：高い自転車を買ったら補助金を出すのも一案。

青木：エコポイント付与の対象に自転車をするのもよい。高いと自転車を絶対放置しなくなる。

### ○最後にメッセージを

兵藤：キーワードとして「美しさ」がある。街が美しい。自転車も美しい。美しい心でのる。そんな都市づくりに傾注したい。

亘理：私にとって自転車はオープンカーだ。自然のなかで空気を切って走る。自転車を更に大事にしていきたい。

青木：自転車に乗っていたら元気でいられるし、人生が明るくなる。こんな気持ちをみんなに伝え、分かち合いたい。

玉袋：自転車乗りにも、ルールを守って車道を走っていただきたいという気持ちは変わらない。  
自転車をブームからライフにして、生活の中へ自転車を取り入れていきたい。



絹代：乗ると便利で早い、安心して道路を走れる環境・街づくりが一日も早くできたらいい。パーソナルからパブリックへ。今の段階ではまだこれという答えはない。来場者の皆さんに、何かヒントを得ていただけたら、こんな風にしてみたいという気持ちになっていただけたなら幸いです。

#### (4) 自転車市民権宣言とフォトセッション

○自転車市民権宣言について：より良い自転車環境作りを目指して署名「この署名は、今後、自転車の市民権の確立や自転車の走行環境改善に役立たせていただきます。」



○財団法人日本自転車普及協会 渋谷良二常務理事へ玉袋氏から手渡した。引き続きフォトセッション。



(5) 展示車両と署名パネル

丸ビル7階ホール入口脇のホワイエにて展示



玉袋 筋太郎  
〈浅草キッド〉

「トラック一台の薬を飲むことよりも、一台の自転車に乗ることが健康への近道」というドイツの格言にやられてしまい、本格的に自転車に乗ることになりました。自転車に乗ると食事美味しい、ビールも美味しい、環境にもいい。人間が発明した夢の乗り物です。

浅草キッド  
自転車操業

私は賛同します。自転車市民権宣言



N I L O  
〈シンガーソングライター〉

クロスバイクに乗れば、「自転車」の概念が変わります！自転車の権利をもう一度取り戻し、本来の意味で環境にも、人にも優しい社会づくりを目指したいです。

N I L O

私は賛同します。自転車市民権宣言



絹代  
〈サイクリライフナビゲーター〉

「かっこいいね」と、笑顔で見送られる自転車乗りが増えたら、街は変わる気がする。自転車は、快適な未来のために必要なツールのルールやマナーを守り自転車の地位を上げて、みんなが暮らしやすい社会を作っていく。

kinuko

私は賛同します。自転車市民権宣言



(6)7階会場入口

7階ホワイエ



受付



## (7)会場内様子

会場内正面



開演前



欧州の自転車事情映像放映



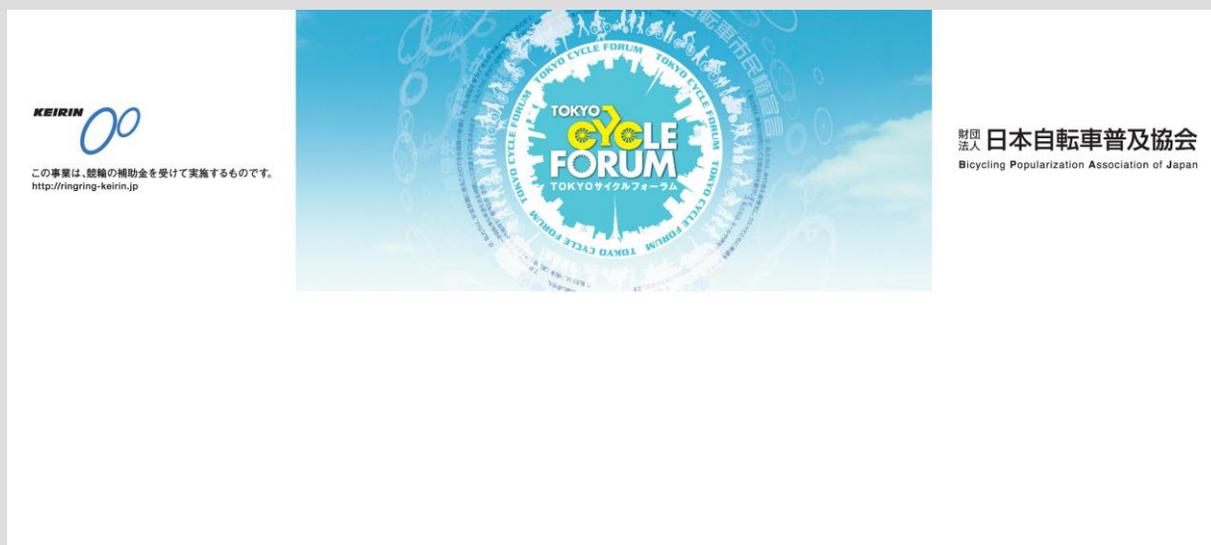
## (8) 装飾パネル・バナー等



エントランスシート  
(W2000×H2600)



ステージ脇バナー  
(W900×H4500)



受付バックパネル  
(W5400×H2600)

(9)配布物

当日のプログラム  
(A4,4C/4C)



**TOKYO サイクルフォーラム 2010.3.24 (WED)**  
18:00~20:50 丸ビルホール(丸の内ビルディング7F) 〒100-6590 東京都千代田区丸の内2-4-1

**プログラムのご案内 (丸ビルホール)**

- 基調講演 [18:00~18:40]  
「自転車が変わる道とまち」 屋井 鉄雄(東京工業大学 教授)
- 自転車トーク&ライブ [18:40~19:00]  
NILO(シンガーソングライター)
- 休憩 [19:00~19:10]
- パネルディスカッション [19:10~20:50]  
「パーソナルからパブリックへ、快適な街づくりを目指して」  
○兵藤哲朗(東京海洋大学 教授) ○吉屋 暉(トヨタ自動車株式会社 IT-ITS企画担当部長)  
○青木 隼子(ジャーナリスト) ○玉嶺節太郎(浅草キッド) ○橋代(サイクルライフビゲーター)

**同時開催**

- 自転車市民権宣言コーナー [17:00~20:50] (丸ビルホール)  
自転車を安全、快適に利用できる環境づくりのための署名活動「自転車市民権宣言」をご紹介します。
- あの人の愛車を展示!!  
「自転車市民権宣言」に賛同、署名いただいたNILOさん、玉嶺節太郎さん、橋代さんの愛車を特別公開!
- TOKYOサイクルスタイルin丸の内 [11:00~21:00] (丸ビル3F 自販)  
自転車メーカー各社が2010年の最新モデルを展示。お気に入りの台を見つけたチャンスです。

この事業は、総務省の補助金を受けて実施するものです。  
<http://ringring-keirin.jp>

講演者の紹介

**基調講演 「自転車が変わる道とまち」**  
屋井 鉄雄 (やい てつお)  
●国立大学法人東京工業大学 教授/工学博士、大学院総合理工学研究所人間環境システム専攻  
●国土・都市計画、環境交通工学の専門家として、自転車社会実現にも積極的に参加。今回の基調講演では、自転車をテーマで扱わせないために不可欠な3つのポイント〜①自転車の都市内走行空間 ②自転車利用者の車両運動の自覚 ③自転車政策の継続的推進のための法的枠組みについてお話しします。

**自転車トーク&ライブ**  
NILO(ニロ)  
●シンガーソングライター  
●07年7月、Apple Music(BossaNova)でデビュー。現在は関西圏を中心にライブ活動を行っており、ボサノヴァやジャズを融合させた新しいサウンドミュージックを追求。オリジナル楽曲の制作にも取り組む。08年8月、オリジナルアルバム「私リス」、また、自転車の演奏をテーマにしたアルバム「私リス」の編曲も担当。ラジオのパーソナリティ、レシーの執筆など多方面で活躍中。

パネルディスカッション

**兵藤哲朗(ひょうどう てつろう)**  
●東京海洋大学海洋工学部流体力学工学科 教授  
●交通需要分析と施設計画の専門家。自転車との関わりは大学時代、サイクリング部で全国を旅行。今は、ヘルメット着用で電車、全線実行。美しい自転車に合う美しい街。そのため自転車走行空間整備を推進したいと思います。

**青木 隼子(あおき ようこ)**  
●編集者(プランナー/環境ジャーナリスト)  
(株)カフエグロブ・ドットコム取締役  
●10年前、環境化ステップは自転車と自転車運動開始。一気に自転車の魅力のところに、人生や自由を心がけたい。自転車に乗るの楽しみを多くの方に伝えたい。自転車ブームの発展最新事情をご紹介したいと思います。詳しく解説します。

**橋代(きぬよ)**  
●サイクルライフビゲーター  
●ロードレースを知り、自転車の可能性を感じた。自転車が、カタダとココロ、そして地球にステキな影響を与えられる存在であることを伝えたい。コーディネーターとしていろいろな意見を引出し出せるようが人になります。

**直理 暉(わたり あきら)**  
●トヨタ自動車(株) IT 町企画部担当部長  
●小学生の頃、大人の自転車を「横のり」で乗って感嘆。今でも自転車は「こゝろな乗り物」に乗ってみたい。な〜という空想を膨らませてくれる。クルマ屋でもありません。自転車も仲間として自転車のことを考えたいです。

**玉嶺節太郎(たまぶろう すじたろう)**  
●浅草キッド  
●道徳界でも指折りの自転車乗りとして、自ら体験したことを通じて、自転車の素晴らしさを伝えるために、活動を盛り上げます。

### 3. TOKYOサイクルスタイルin丸の内

## (1) TOKYOサイクルスタイルin丸の内

開催場所 丸ビル(三階回廊にて)

開催日時 平成22年3月24日 11:00 ~ 21:00

展示内容 協力メーカー15社の協力を得て、26台の2010年モデル自転車を展示  
ツアー・オブ・ジャパン特別展示(レーザー自転車2台展示)

来場者数 548名

自転車市民権宣言署名回収数 70枚

### 自転車市民権宣言署名コーナー



3階回廊の俯瞰写真



### ツアー・オブ・ジャパンコーナー



展示した2010年モデル自転車



## (2) 装飾パネル

3階回廊メインパネル  
(W4500×H2700)



市民権宣言カウンター受付バックパネル  
(W1800×H2700)



## (3)展示自転車一覧

会社・ブランド名	ブランドロゴ	Webリンク先アドレス	製品分野
宇都宮ブリッツェン		TOJコーナー	1
ブリジストンアンカー		TOJコーナー	1
(株)インターマックス		<a href="http://www.intermax.co.jp/">http://www.intermax.co.jp/</a>	1
ホダカ(株) コーダブルーム		<a href="http://khodaa-bloom.com/">http://khodaa-bloom.com/</a>	1
宮田工業(株) コガ・ミヤタ		<a href="http://www.miyatabike.com/koga/">http://www.miyatabike.com/koga/</a>	1
宮田工業(株) メリダ		<a href="http://www.miyatabike.com/merida/">http://www.miyatabike.com/merida/</a>	1
(株)ジョブインターナショナル ジオス		<a href="http://www.job-cycles.com/">http://www.job-cycles.com/</a>	1
(株)ジョブインターナショナル パツソ		<a href="http://www.job-cycles.com/">http://www.job-cycles.com/</a>	1
トレック・ジャパン(株)		<a href="http://www.trekbikes.co.jp/">http://www.trekbikes.co.jp/</a>	1
SCOTT(株) ゴールドウイン		<a href="http://www.goldwin.co.jp/scott/bike/">http://www.goldwin.co.jp/scott/bike/</a>	1
ブリジストンサイクル(株) オルディナ		<a href="http://www.ordina.jp/">http://www.ordina.jp/</a>	2
キャンナデールジャパン(株)		<a href="http://www.cannondale.co.jp/">http://www.cannondale.co.jp/</a>	2
TOKYOBIKE(株)ハービーズ		<a href="http://www.tokyobike.com/">http://www.tokyobike.com/</a>	2
グローブライド(株) コラテック		<a href="http://cycle-sports.globeride.co.jp/">http://cycle-sports.globeride.co.jp/</a>	2
(株)ジャイアント		<a href="http://www.giant.co.jp/">http://www.giant.co.jp/</a>	2
パナソニックサイクルテック(株)		<a href="http://cycle.panasonic.jp/">http://cycle.panasonic.jp/</a>	2
ヤマハ発動機(株)		<a href="http://www.yamaha-motor.jp/pas/">http://www.yamaha-motor.jp/pas/</a>	3
パナソニックサイクルテック(株)		<a href="http://cycle.panasonic.jp/">http://cycle.panasonic.jp/</a>	3
三洋電機(株)		<a href="http://products.jp.sanyo.com/eneloopbike/lineup/spj/">http://products.jp.sanyo.com/eneloopbike/lineup/spj/</a>	4
ミズタニ自転車(株) ビーディーワン		<a href="http://www.mizutanibike.co.jp/">http://www.mizutanibike.co.jp/</a>	4
ミズタニ自転車(株) ブロンプトン		<a href="http://www.mizutanibike.co.jp/">http://www.mizutanibike.co.jp/</a>	4

## 製品ジャンル

1. スポーツ系(ロードバイク)
2. スポーツ系(クロスバイク)
3. 電動自転車系
4. フォールディング系

## 5. アンケート

## (1) アンケート調査

- ①調査目的 自転車を安全かつ快適に利用できる環境整備の方策及び協会の事業展開等に関する来場者の認識を把握する。
- ②調査方法 フォーラム会場入口にて来場者にアンケート用紙を配布し、会場内にて自ら記入いただいた。
- ③回答者数 320人（設問によっては、複数回答可としたため、回答者数合計が全回答者数を上回っているものもある。）

## (2) アンケート様式

### ■TOKYO サイクルフォーラム会場アンケート

1) あなたの個人属性についてお尋ねします。

Q1.お住まい	1. 東京都23区内	2. 東京都市町村部	3. 神奈川県	4. 埼玉県	5. 千葉県	6. 山梨県	7. 栃木県	8. 茨城県	9. 群馬県	10. その他( )
Q2.性別	1. 男	2. 女								
Q3.年齢	1. 10代	2. 20代	3. 30代	4. 40代	5. 50代	6. 60代	7. 70代以上			

2) 自転車の利用状況についてお尋ねします。

Q4. 自転車を お持ちですか	1. はい	2. いいえ									
Q5. 日頃、自転車に 乗っていますか	1. はい	2. いいえ	Q6-1. 自転車に乗る目的は何ですか 該当するもの全てに○をつけてください	1. 通勤	2. 通学	3. 買い物・私用	4. 仕事・業務	5. 運動・エクササイズ	6. その他( )		
	2. いいえ		Q6-2. 自転車に乗っていない理由は何ですか 該当するもの全てに○をつけてください	1. 自転車に乗れないから	2. 危ないから	3. 自転車を止める場所がないから	4. 自転車を盗難されたから	5. その他( )			

3) 自転車と他の車両との関係について、各項目の該当するものに○をつけてください。

Q7. 普段、自転車に乗る際は主にどこを走りますか	1. 歩道	2. 車道	Q8. 自転車は車両の仲間であり、原則車道を走るといふことをご存知ですか	1. はい	2. いいえ	
Q9. 自転車が車道を走ることについて、どう思いますか	1. 歩行者との接触事故を避けるためには必要	2. 自動車などとの接触事故が予想され危険	3. その他( )			
Q10. 自転車利用者に望むことは何ですか 該当するもの全てに○をつけてください	1. ルールの遵守意識を高めてほしい	2. ヘルメットを着用してほしい	3. 夜間ライトを点灯してほしい	4. 保険加入の意識を高めてほしい	5. 車道の左側を走ってほしい	6. その他( )
Q11. 自動車ドライバーに望むことは何ですか 該当するもの全てに○をつけてください	1. 自転車は車道を走る仲間として認識してほしい	2. 歩行者・自転車事故に繋がる自動車の違法駐車をやめてほしい	3. 無理な追い越しはやめてほしい	4. その他( )		

4) Q12. 自転車を快適に利用するためには何が重要だとお考えですか。該当するもの全てに○をつけてください。

1. 自転車専用道路の整備	2. 駅等主要施設に付帯する駐輪場の整備	3. シャワー等の施設の整備
4. 自転車のメンテナンスサービスが手軽に利用できる環境の整備	5. 盗難やいたずらの抑止策の徹底	6. 自転車利用者のルール・マナーの徹底
7. その他( )		

5) 放置自転車についてどのようにお考えですか。該当するもの全てに○をつけてください。

Q13. 放置自転車が気になる	1. はい	2. いいえ
Q14. 放置自転車が気になる方への質問です。解決策について妥当だと考える全ての項目に○をつけてください	1. 駅や商業施設の近くに駐輪場を設置してほしい	2. 駐輪場には管理人を置いてほしい
	3. 駐輪場の利用料金をもっと下げてほしい	4. 違法駐輪は厳しく取り締まってほしい
	5. その他( )	

(裏面の設問にもお答えください)

※ アンケートにご回答いただきますとローテイストア・プロデュースの中野達男氏監修のTシャツをプレゼント

6) コミュニティサイクル(複数のポートとレンタルサイクルが設置、いずれのポートでも貸出・返却が可能なもの)について、以下の問いにお答えください。

Q15. コミュニティサイクルをご存知ですか	1. はい	Q16-1. ご存知の場合、利用したことはありますか	1. はい	2. いいえ
	2. いいえ	Q16-2. ご存知の場合、更に普及したほうがよいと思いますか	1. はい	2. いいえ

7) 自転車市民権宣言及び本フォーラムに関する認識について該当するものに○をつけてください。

Q17. 自転車市民権宣言をご存知でしたか	1. はい	2. いいえ
Q18. 自転車市民宣言についてどう思われますか	1. 賛同する	2. 賛同できない(理由: )
Q19. 本フォーラムへのご来場目的はどのようなものですか 該当するもの全てに○をつけてください	1. 自転車への興味・関心	2. 欧州の自転車文化・環境への興味・関心
	3. 道路への興味・関心	4. 自転車業界への興味・関心
	5. その他( )	
Q20. 本フォーラムで興味・ご関心のあったコンテンツは何ですか 該当するもの全てに○をつけてください	1. 基調講演「自転車が変わる道とまち」	2. 自転車トーク&ライブ
	3. パネルディスカッション	4. 著名人サイクリストの愛車展示
	5. その他( )	
Q21. 本フォーラムはどのようにお知りになりましたか 最も該当するもの1つに○をつけてください	1. パソコンの Web サイトで知った	2. ケータイの Web サイトで知った
	3. 家族・友人・知人からの口コミで知った	4. 雑誌で知った
	5. 新聞で知った	6. ラジオで知った
	7. 自転車ショップで知った	8. その他( )
Q22. 今後、このようなイベントをお知らせする場合、どのような告知方法を希望しますか 該当するもの全てに○をつけてください また、カッコ内の雑誌、新聞、番組名も可能な範囲でご記入ください	1. (財)日本自転車普及協会のホームページ(パソコン)での告知	2. (財)日本自転車普及協会のホームページ(ケータイ)での告知
	3. 専門誌(BicycleClub・CycleSports)での告知	4. 一般誌(雑誌名: )での告知
	5. 新聞(新聞名: )での告知	6. ラジオ(番組名: )での告知
	7. 自転車ショップでの告知	8. その他( )

8) 最後に、本フォーラムについてのご意見、ご感想等ございましたらご自由にお書きください。

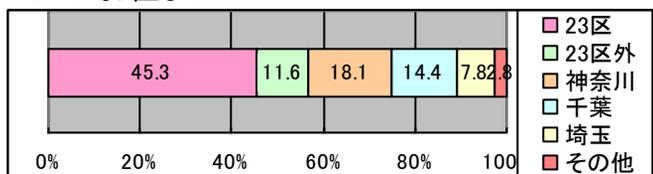
設問は以上です。 ご協力ありがとうございました。

**(3) アンケート集計結果・分析**

一定比率以下の回答はその他に統合して表記するか、まったく表記していない。

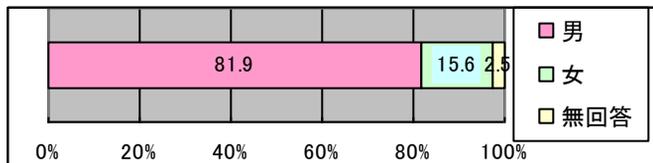
## 1) 個人属性について

## Q1. お住まい



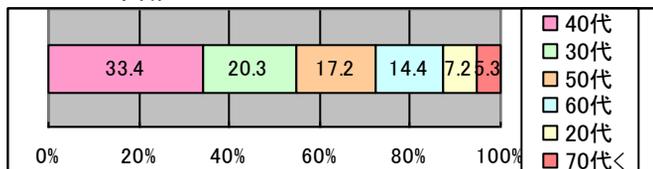
東京都23区と都下市町村部の合計で約半分を占め、以下、神奈川県、千葉県、埼玉県の順となっている。また、静岡県、大阪府、長野県からの参加者もいた。

## Q2. 性別



男性が約8割と圧倒的に多数を占めた。

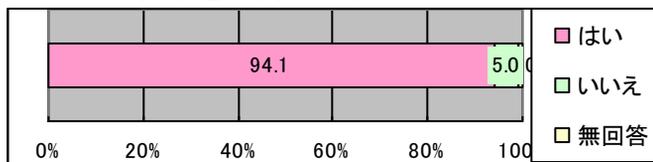
## Q3. 年齢



最も多いのは40代で約3割、ついで30代が2割となっている。以下、50代、60代の順で、20代や10代の若手を大きく引き離している。

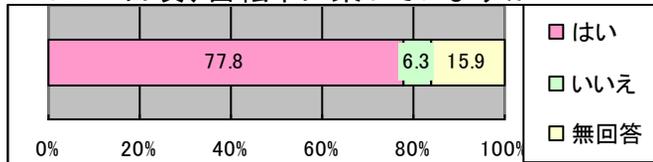
## 2) 自転車の利用状況について

## Q4. 自転車をお持ちですか



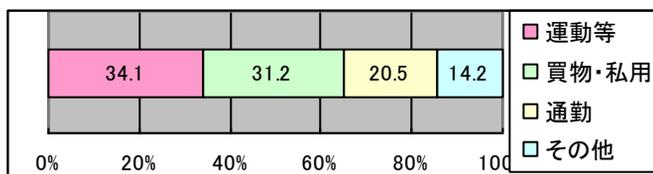
来場者の自転車の保有率は94.1%で極めて高い比率となっている。

## Q5. 日頃、自転車に乗っていますか



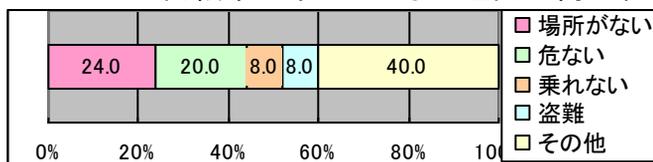
日頃自転車を利用している方の比率は8割弱となっている

## Q6-1. 自転車に乗る目的はなんですか



自転車に乗る目的は、「運動・エクササイズ」と「買物・私用」が3割強を占め、ついで通勤となっている。その他の意見としては、旅行、サイクリング、ロングツーリング、ポタリングであった。

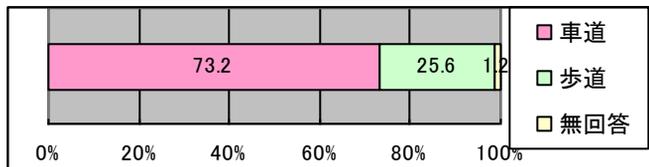
## Q6-2. 自転車に乗っていない理由は何ですか



回答数は25人と極少数であったが、その他・無回答を除くと、自転車に乗っていない理由は、自転車を止める場所がないと危ないが二大要因となっている。

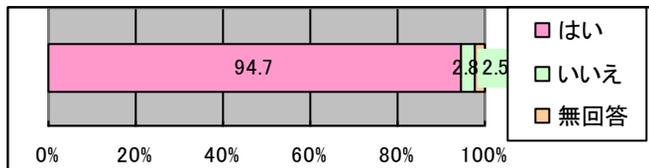
## 3) 自転車と他の車両との関係について

## Q7. 普段、自転車に乗る際は主にどこを走りますか



車道と答えた方が7割強と非常に高い比率となっており、歩道を走ると回答した方は四分の一となっている。なお、車道走行が基本だが、危険な時には歩道も走るといった意見もあった。

## Q8. 自転車は車両の仲間であり、原則車道を走ることをご存知ですか



原則、車道を走行することを知っていると回答された方は94.7%と非常に高い比率で、知らなかったと回答された方は3%にも満たなかった。

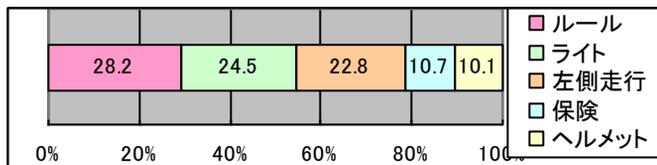
## Q9. 自転車が車道を走ることについてどう思いますか



歩行者との接触事故を避けるためには自転車は車道走行が必要との回答が半分を超え、自動車との接触事故が予想され危険との意見は3割に留まっている。その他の意見としては、車両だから当然車道を走るといった意見と車道走行は危険・困難な場所もある

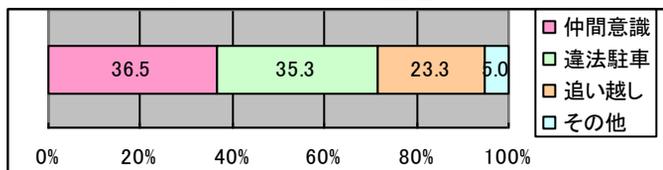
るので一律は無理。そして、道路幅によりけりといった意見もあった。

## Q10. 自転車利用者に望むことは何ですか



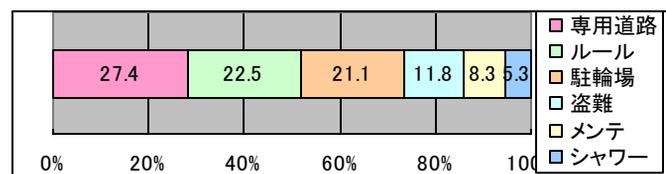
自転車利用者に望むことは、ルールの遵守意識の高まりでほぼ3割を占めた。ついで、夜間のライトの点灯、車道の左側走行と続き、この三点が2割を超えた。その他の意見としては、自転車は車両であるとの意識の向上を図るべきとの意見もあった。

## Q11. 自動車ドライバーに望むことは何ですか



自動車ドライバーに望むことは、自転車は車道を走る仲間との認識と自転車等の事故につながる違法駐車をやめるの二つがほぼ35%程度で高い比率となった。また、無理な追越をやめるも2割となっている。その他の意見としては、幅寄せと無用なクラクションはやめて欲しい。スピードを抑えて欲しいとの三点に集約される。

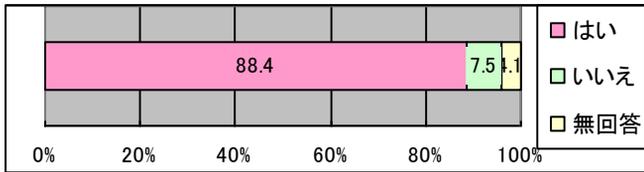
## 4) Q12. 自転車を快適に利用するために重要だとお考えのポイントは何か



自転車を快適に利用するために重要なポイントは、自転車専用道路の整備が最も多くて3割弱となった。ついで、ルールの遵守・教育と駐輪場の設置となっている。その他のとしては、法整備を求める声や自転車通勤の理解と支援等となっている。

## 5) 放置自転車について

## Q13. 放置自転車が気になりますか



9割近くの方が気になると回答した。

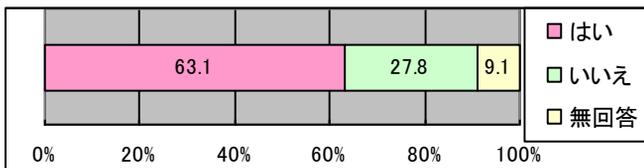
## Q14. 解決策として妥当なものは何ですか



放置自転車が気になる方への解決策に関する質問では、4割強の方が駅や商業施設の近くに駐輪場を設置することを選択した。次いで取締の強化と駐輪場に管理人を置く、駐輪場の利用料金を引下げるの順であった。その他の意見としては、安価な自転車の輸入販売の禁止といった意見もあった。

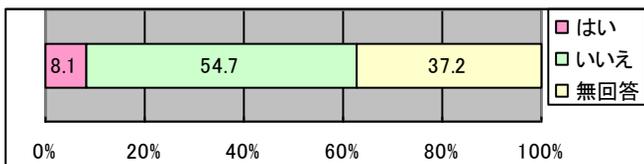
## 6) コミュニティサイクルについて

## Q15. コミュニティサイクルをご存知ですか



複数のポートとレンタルサイクルが設置され、いずれのポートでも貸出・返却が可能ないわゆるコミュニティサイクルの認知度は6割に留まっている。

## Q16-1. ご存知の方で利用したことがありますか



知っている方の中でコミュニティサイクルの利用経験が有る人は1割にも満たなかった。我が国におけるコミュニティサイクルの普及が未だ低水準であることを物語っている。

## Q16-2. ご存知の方で更に普及するほうが良いと思いますか



知っている方の中で今後コミュニティサイクルを更に普及する方が良いと回答した人の比率は4割弱となっている。

## 7) 自転車市民権宣言及び本フォーラムに関する認識について

## Q17. 自転車市民権宣言をご存知でしたか



約半分の人が知らないと回答し、知っている人の4割弱を上回った。今後も更なる普及が必要である。

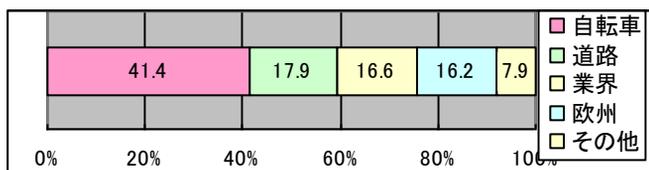
## Q18. 自転車市民権宣言について賛同しますか



84%の人が賛同すると回答し、有効回答に占める比率に引きなおすと96%と圧倒的に高い比率となっている。反対の意見としては、完全に車道走行は無理。ヘルメットの着用は置き場所等大変、ママチャリでは無理。車道での自転車優先が明確でない。署名は賛同できるが署名を集めた後の具体的な活

動が見えないといった意見もあった。なお、個々人のモラルに任せるべき・自主性を奪うから反対といった意見もあった。

## Q19. 本フォーラムへの来場目的はどのようなものですか



来場目的は、自転車自体への興味・関心が4割と他の項目に比べて高い比率となった。ついで、道路整備・改善、自転車業界動向及び欧州の自転車文化・環境への興味・関心で、この三つの項目は16~18%でほぼ同じ比率であった。

## Q20. 本フォーラムで興味・関心のあったコンテンツは何ですか



興味や関心の高かったコンテンツは、基調講演、パネルディスカッション及びトーク&ライブの三つのコンテンツで24%~28%とほぼ同率で高く、次いで有名人の愛車展示であった。

## Q21. 本フォーラムをどのようにお知りになりましたか



パソコンのWebサイトが丁度3割でもっとも高く、次いで、口コミ、雑誌と新聞が15%程度となった。自転車ショップで知ったとの回答者もあった。

## Q22. 今後、このようなイベントをお知らせする場合、どのような告知の方法を希望しますか



周知のチャンネルとしては、協会のホームページ(パソコン)について、バイク雑誌、新聞、自転車ショップの順となっている。その他は、Twitterやメルマガ、Mixiのコミュニティといったインターネットを介しての周知を求める声が圧倒的であった。

## (4) 本フォーラムについての意見 (一部重複した意見は記載していない。)

### ①フォーラムに肯定的な意見や開催の継続を希望する意見

- ・もっとこのような企画を多く開催して、日本もヨーロッパのような自転車を楽しめる国にして欲しい。
- ・継続して開催していただきたい。とても良い刺激になりました。頑張ってください。
- ・地方都市向けの内容で、地方都市での開催を希望します。
- ・このようなフォーラムをもっと開いて、自転車の普及と道路の整備、駐輪所の拡大等自転車を取り巻く環境を良くして欲しい。とてもいい取り組みだと思う。
- ・自転車について知見を深める良い機会になった。
- ・自転車サイドから見た車、歩行者に対する安全性、乗車時の自転車安全性が気になってきた。本フォーラムは是非継続していただきたい。自転車、歩行者、車も含めて安全、快適に利用できる環境になればいいと思う。
- ・基調講演は難しい話もありましたが、PPTデータが配布されており、メモ取る必要が無く話に集中できてよかった。パネルディスカッションは、取材VTRがわかりやすかった。日本の進んでいる都市の例もあり皆さんが持ってきたデータがそれぞれわかりやすかった。お客さんが大勢来ていて驚いた。スポーツジム代が高いので自転車を始めてみたいと思った。意外に楽しい時間だった。
- ・基調講演を非常に意義深く聴かせていただきました。もう少し時間が欲しかった。
- ・NILOさんの声すてきでした。車道右側通行の自転車が多いのが現実。私たちは一人一人が伝え続けなければならないと思う。私に出来ることを一つずつでもやって行きたい。スタッフの皆様お疲れ様でした。
- ・自転車に乗る環境が整えば最高だと思います。いろいろな問題点に取り組んでもらったと思います。パネルディスカッションが良かったです。ニロさんもさわやかな歌声ありがとうございました。
- ・パネラー4人が様々なジャンル、性別の方を揃えていただいたのがとてもよかったと思います。また、パネルディスカッションといいながら各パネラーのプレゼンテーションで終わりがちなフォーラムが多い中、各個人のご意見を沢山聞けてよかったです。
- ・最近北参道やトークイベントも多くなっていますが、今日は少し大掛かりな感じで良かったと思います。各国の自転車レーンの状況、自動車と自転車と人の公共機関のあり方、いろいろ参考になりました。
- ・ヨーロッパのビデオはとっても良かったです。
- ・ヨーロッパの事情がわかり参考になった。地形によって日本では難しいが。

### ②自転車の走行環境整備に関する意見

- ・本気で国が自転車走行空間を考え自転車政策を進めてください。
- ・行政が強引に自転車路を設定してくれなければ何も出来ない。SportとしてFunとして自転車を楽しむための専用道路の少なさはひどい。あれではいずれ自転車は危険な乗り物の代名詞だけになってしまう。東京環状自転車道路を作る位の投資が必要だ。
- ・サイクルロードの普及に市民を巻き込む。欧州、特にオランダのサイクルロードに感心した。
- ・自転車レーンや専用道の整備を働きかけて欲しい。
- ・中心市街地と街と街の間を分けて議論する必要があるのでは。国内の地方の都市から環境整備を支援してみてもどうか。
- ・自分自身、車の不注意による交通事故で約一年自転車に乗れなかった。安全にサイクリングを楽しむ環境を日本も作ることが必要だと思う。
- ・今後も歩行者、自転車、自動車が安全、快適に共生できる社会を目指して欲しい。
- ・自然にも優しい自転車が、人や社会ともっと身近になって乗りやすい町になってもらいます。

### ③自転車運転ルール・普及に関する意見

- ・信号、ルール等当たり前のことを守る乗り方が一番大事だと思います。
- ・非常に正しい認識で大変心強い思いです。あとはこの意見を実現化すること。行政、政治、市民活動、マスコミみんなで力をあわせて自転車の市民権を確立しよう。
- ・自動車も自転車も歩行者も交通ルールを守り、思いやりを持って交通事故を減らしていくことが大事だと思います。
- ・日本の自転車文化は外国に比べて相当遅れています。ルールやマナーも乱れています。この対策として子供の時にルール等をいかに教えるかが問題。これは国家レベルでやるべきことで一財団法人では限界があるのでは。

- ・自転車専用道路は歩行者通行禁止にして欲しい。下駄感覚で、車両に乗っている意識が希薄。
- ・バイクボックスの必要性を強く感じた。自転車レーンもあったほうが良い。ドライバーとのアイコンタクトを意識しようと思った。マナー意識の向上が必要。
- ・自転車は気軽に乗れるが自由に乗っていいものではない。今の自転車の使い方のまま自転車道を作っても巨大な駐輪場が出来るだけだと思う。まず自転車は車両であることを周知、法規の徹底。
- ・ブームでなくLIFEにして、安心して乗れるようにして欲しい。玉ちゃんが言っていた逆走、不灯火禁止にして欲しい。
- ・あーしてくれ等権利を主張する前に当たり前の義務が出来てない自転車利用者が多すぎる。信号無視、放置、右側通行、逆走等ルールを守れない人が多い。ハードや仕組み法整備だけでなく乗る人のリテラシーのアップが必要だと思う。
- ・自転車の運転時には信号を守る人・信号を無視する人、それぞれ別人ではなく同じ人と思う。
- ・クロスバイクで片道30分通勤に乗っている。車道を走っているが危険を感じる時もありたびある。今回自転車市民権宣言の活動を知り期待している。
- ・欧州並みに自転車文化を育てるべき。もっと自転車レース等を市内で行うと良い。
- ・日本の良い面を紹介すると良い。(ヨーロッパの良い場面を紹介しても参考にならない)
- ・自転車は10歳以上は免許制の3年ごとの更新性がいいと思う。更新する時に講習会をすれば、マナーやルールを守れると思った。
- ・これを契機に自転車運転の意識が上げればと思います。
- ・現在、歩道を自転車に乗っているが、歩行者が歩いている時は「すみません」と声かけして道を空けてもらっている。また、自転車にも手を上げて後ろの人に知らせている。
- ・健康増進に自転車乗用は最適。従って、自転車市民権宣言は早く盛り上げ実現して欲しい。是非テレビNHKニュースで放映してください。

#### ④フォーラムの運用に関する意見

- ・本フォーラムの内容をHPで発信すると良いと思います。
- ・パネルディスカッションの資料を是非手元に残したかったです。また、是非本フォーラムをDVD化して戴ければとても意味があると思います。
- ・パネラーに道路行政に関する者の出席を。
- ・せっかく人を集めるのだから、後につながるような集め方をしたらよい。
- ・パネルディスカッションでは芸能人ばかりでなく一般のサイクリストの参加を検討してみたいか？
- ・地味で地道な取り組みだが、非常に重要な活動だと思います。こうした趣旨で行われている各地での活動、各団体、個人による活動を一つのネットワークでつなぎ、大きく、目立ち、声の大きなものにしてゆくことがこれからの課題です。
- ・自転車の安全や整備不良の件等が何も語られなかったことは残念。
- ・自動車会社の方がパネラーに入っているのはとてもよいと思いました。
- ・大人だけを対象としたものではなく、子供の頃からもっと自転車に親しめるイベント等を増やして底辺から盛り上げて欲しい。
- ・質疑応答の時間を。

#### ⑤フォーラムの対象者に関する意見

- ・世の中には圧倒的に普通の自転車乗りが多い。この人たちに自転車走行について考える機会を増やすために今後も活動を続けていただけたらと思います。
- ・もっといろいろな人達へアプローチできたらいいと思う。
- ・自転車文化が根付くように、自転車に関心のない人たちとの対話や交流を行う必要があると思います。
- ・今回のような事前登録制及びクローズな会場では自転車に興味のある人しか来ないのでフォーラムの内容自体それらの人にはWell Knownだと思う。丸ビルでも1階などで人の集まる場所で行い、自転車社会の啓蒙に重点を置いて欲しい。
- ・自転車にはママチャリも含まれているので、自転車雑誌とか専門的な分野ばかりでの告知や対象をスポーツバイクに限定しては状況は良くならない。
- ・ついでで参加してくれる人を呼び込むほうが良いのでは？
- ・自転車に興味のない人にもアピールできる内容が欲しかった。結局はどんな人に向けたイベントなのかわからない。自転車好きの人にはわかりきった話だし。興味のない人は来ないし。

### ⑥開催日時や場所に関する意見

- ・来場者が多くいらしたので、もう少し広い会場のほうが良い。
- ・平日の午後5時からというのは少し早いなあーと思った。
- ・三時間はチョット長い
- ・座席の間隔が狭いように思います。
- ・市民センター等もっと市民(庶民)生活に身近な場所で開催。上から目線に感じる。
- ・席の間隔が狭すぎて長時間のイベントには不都合だと思いました。このようなアンケートはWebや携帯でやられたほうがよい。
- ・自転車とは無関係のイベントは出来るだけ休日に開催してください。

### ⑦その他の意見

- ・どう異なる立場の人をつなぎ対話できるようにしていくか。どこから具体的なActionを始めるか。自らの課題にしたいと思います。
- ・フォーラムとは関係ありませんが、最近、大量販売の店が多くなり、修理のできる小売店が少なくなりパンク等の修理でも遠くまで足を延ばさないといけなくなりました。高齢化で閉店する事に一抹のさびしさを感じております。
- ・参加者の年齢が高いのには驚いた。

## (5) アンケート全体を通して

フォーラム参加者の全体像のイメージは、都内在住の30～50代の男性で、日頃運動や買い物を目的として自転車に乗っている。

自転車に乗る場所はほとんどは車道を走るように心がけているが、道路の幅員が狭いところでは歩道もやむなしとのこと。この車道走行は歩行者保護のために当然と考え、自ら自転車走行時のルール遵守を求めている。

自動車のドライバーに対しては、自転車は車両の仲間であると認識して欲しいし、違法駐車をやめて欲しいと願っている。

自転車を快適に乗るための環境整備として必要なポイントは、まずは自転車専用道路を整備する。ついで、ルールの遵守と駐輪場の整備を求めている。

社会問題化している放置自転車については、気になっていて、有効な解決策は駅や商店街の近くに駐輪場を整備することである。

コミュニティサイクルについては、認知度・利用度ともに低い。

自転車市民権宣言については、知っている人より知らない人の方が多く、その認知度は低い水準に留まっている。一方で、この宣言の内容についてはほとんどの人が賛同できるとの意見で、今後の自転車市民権宣言の一層の普及が期待されている。

本フォーラムの来場目的は自転車自体に関する関心である。

このフォーラムの認知方法はパソコンのWebサイトを介してで、今後の周知方法についても、ホームページが一番高い水準となっている。

本フォーラムに関する自由意見は約120件程度寄せられた。その4割はフォーラムに肯定的な意見や継続開催を求める意見であった。また、フォーラムの開催に際して、対象者をどのようにゾーニングするか、フォーラムの運用等についても多方面から建設的な意見を沢山頂戴した。

このような、上記アンケートの結果について、他のイベント時(※)の結果と比較してみると、「車道走行の比率」は、他のイベントでは約半分未満に留まっているが、本フォーラム参加者においては7割を上回っており本フォーラム参加者の認識の高さが伺える結果となった。

※ さいたまカーフリーデー2009	普段自転車で走る所は？車道： 48.6%
横浜カーフリーデー2009	普段自転車で走る所は？車道： 44.4%
エコプロダクツ2009	普段自転車で走る所は？車道： 45.7%